



市民と静大共同企画
アパレルすおか・すこぶるニッポン
市民開放授業

授業というより、もはやひとつのプロジェクト。

けり を付ける。

病床にあった正岡子規は
「いくたびも雪の深さを尋ねけり」と詠い、
蕨村は「しら梅に明るる夜ばかりとなりけり」と
消え入りそうな声を紡いで、
それぞれの命に「けり」を付けました。
「けりを付ける」という言葉の由来は、
和歌や俳句の末を詠嘆の助動詞「けり」で
終えることが多いことから来ています。
何かにきちんとけりを付けたい。句点を打ちたい。
だれにもそんな思いがあり、思う時がきます。
さて、情報意匠論を通して、
あなたは何に「けり」を付けますか。



情報意匠論

静岡大学人文学部言語文化学科
日本言語文化各論Ⅰ

2006.10 START

毎週金曜日7・8時限 14:25~15:55
時間外の特別講座あり。

担当: 平野雅彦/プランナー
クリエイティブ・ディレクター。いくつものプロジェクトを始動させる。
広告賞多数。

日本がとってきた方法を学び、そこから現代に通じる企画を立てていく格別な授業。

